

令和 6 年 度 宗 務 計 画 書

所 管 部 署	総合研究センター	作 成 日	令和6年4月4日
---------	----------	-------	----------

業 務 名	宗学研究部門業務	業務事業コード	C150
実 施 根 拠	■宗制 □内規 □その他 ()		
	規程等の名称	曹洞宗総合研究センター規程第 12 条第 4 項	

直接経費の予算科目

会計区分	歳出科目	款-項-目-節	科目名
一般会計	経常部	11-3-3	宗学研究部門

宗 務 計 画
<p>【業務の目的】 宗学に関する調査及び研究を行い、その成果を公開するとともに、宗学研究を推進するための人材の養成を図る。</p> <p>【業務の内容】 研究活動 道元禅師の総合的研究 本研究では、道元禅師に関するこれまでの研究成果を踏まえつつ、伝記や著作、思想などの総合的な考察を通じて、道元禅師研究の進展を目標としている。近年では、道元禅師の引用文献に焦点をあて、その出典研究を進めている。 今年度においては以下の内容について取り組む。 (1) 『入衆日用』に関する総合的研究（前年度より継続）講師：石井修道先生 (2) 『禅苑清規』の訓註的研究（仮題、上記完了後に開始予定）</p> <p>瑩山禅師の総合的研究 本研究では、瑩山禅師に関するこれまでの研究成果を踏まえつつ、伝記や著作、思想などの総合的な把握を通じて、瑩山禅師研究の進展を目標としている。 今年度においては以下の内容について取り組むものである。 (1) 『諸本対校『瑩山清規』』の研究</p> <p>宗典のデータベース化 現在絶版となっている『曹洞宗全書』18巻、『続曹洞宗全書』10巻について電子化作業を進めてきた。令和5年度ではデータ化した文献の一部公開に向けた準備作業に取り組んだが、令和6年度では、宗侶及び寺族の利便性に寄与するため、電子化作業にて作成したテキストデータについて公開に向けた作業に取り組むものである。</p> <p>宗典資料の蒐集調査及び保存 当部門では、『正法眼蔵』や『伝光録』などの宗典及び関連文献の写本・刊本を可能な限り蒐集・整理し、宗典に関する研究活動の資料作成を行うことを目的としている。また、近年頻発する自然災害などにより、貴重な宗典を損失してしまうことが無いよう、デジタル画像データによる保存・管理を行っている。さらに、将来的に総研 HP 等により画像データを公開し、宗門内外における活用の促進と、研究の進展に寄与することも目指している。 今年度は、妙徳山泉福寺（大分県国東市）での実施を計画している。</p> <p>『曹洞宗関係雑誌・文献目録』の作成 曹洞宗関係文献や研究論文などを調査・分類し、『宗学研究紀要』にて報告してきたものを取りまとめ、『曹洞宗関係文献目録Ⅳ』として刊行した。本目録は平成25年に刊行された『曹洞宗関係文献目録Ⅲ』に次ぐ第4巻であり、平成22年4月から平成31年3月までに発刊・公開された曹洞宗に関わる書籍ならびに論文などを中心に、先に刊行された目録の遺漏分を含めた2,871件のデータを収録している。 今後は、昨今の他機関における検索システムの充実等の環境変化を踏まえ、宗務庁刊行雑誌や本山・専門僧堂関係の雑誌等の曹洞宗関係刊行物並びに曹洞宗関係の内容が記載される書籍に特</p>

化して収集・整理し、曹洞宗総合研究センターのHP (<https://bunken.sotozen-net.or.jp/>) において文献検索のデータとして活用できるようにその成果を随時更新していくものである。そして、一定の文献の蒐集・分類が整い次第、適宜『宗学研究紀要』にて報告していく。

仏事に関する研究会について

葬儀や追善供養などの仏事は、檀信徒教化のために、また寺院護持のために欠かすことができない大切な行持である。これらの行持は『曹洞宗行持軌範』に基づき、各寺院の山風や地域性を加味して実施されているが、近年、都市部を中心に新たな形態が見受けられるようになった。そこで、本研究会において情報を収集するとともに、今後の葬祭のあり方を視野に入れ、研究を重ねるものである。その成果について『宗学研究紀要』にて報告するものである。

加えて、上記内容の関連文献の蒐集のため、資料調査を実施する。

宗学研究に関わる現地研修

両祖を中心とする宗学研究について文献学的研究のみに留まらず、現地研修を実施し、当該寺院の歴史的経緯や伽藍の建築様式等の文化的側面を学ぶ。加えて美術館・博物館・資料館等における展覧会にて文化財資料を実見することで、各研究活動への示唆を得ることを目的とする。

今年度は、関東地方の施設（東京国立博物館・神奈川県立金沢文庫等）において現地研修を予定している。

『宗学研究紀要』（第38号）の編集刊行

各研究員が取り組んでいる個人研究の研究成果及び宗学研究部門における共同研究の成果を報告するため、研究紀要を編集・刊行するものである。

関係学会・研究会への参加

- ・ 日本印度学仏教学会第74回学術大会（9月上旬、於 駒澤大学）
- ・ 日本宗教学会第83回学術大会（9月中旬、於 天理大学）
- ・ 日本仏教学会2024年度学術大会（第92回大会、9月中旬、於 西日本地域）
- ・ その他、各種関係学会・研究会

研修

- ・ 大本山永平寺眼蔵会（研究員2年度及び希望者参加）
- ・ 大本山總持寺伝光会摂心（研究員初年度及び希望者参加）

その他の活動

- ・ 部門内会議（月1回の予定）
- ・ 共同研究に関わる文献等調査（図書館等）
- ・ 講演会・講座の開催（年2回から4回程度、適宜開催する予定）

【成果目標・実績】

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
宗学研究紀要刊行作成数	実績	1	1	1	1	
	目標値	1	1	1	1	1
データベース公開数	実績	-	-	-	-	
	目標値	-	-	-	-	1

※ 宗学研究紀要については第38号の作成を予定している。

※ データベース化については年1回の公開を予定している。

【活動目標・実績】

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
仏事研究会開催数	実績	8	5	6	5	
	目標値		8	8	8	8
宗典蒐集調査実施数	実績	0	1	1	1	
	目標値	1	1	1	1	1
仏事研究現地調査実施数	実績	-	-	-	-	
	目標値	-	-	-	-	1

『入衆日用』に関する総合的研究実施数	実績	-	7	6	9	
	目標値	-	10	10	10	10
学会参加回数	実績	3	3	1	2	-
	目標値	-	-	-	-	4
研修実施数	実績	-	-	-	2	
	目標値	-	-	-	-	2

【予算額・内訳】 令和5年度以前は未集計。

千円(百円以下は四捨五入)

		令和6年度
予算額	直接経費	2,829
	人件費	24,938
	合計	27,767

【執行額・内訳】 令和5年度以前は未集計。

千円(百円以下は四捨五入)

		令和2年度	令和3年度	令和4年度
執行額	直接経費	-	-	-
	人件費	-	-	-
	合計	-	-	-